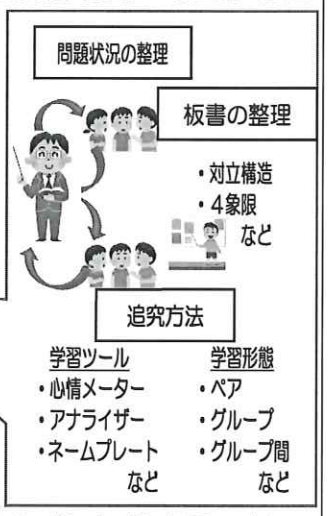
子供が学びをつくる　特別の教科道徳（高学年）

	道徳科の目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供
課題設定	**自分の日常生活と学ぶ道徳的価値との関連を考えたり，他者との道徳的価値観の違いを意識したりする活動を通して，教師とともに自分たちの実態に合った課題設定をすることができる。** （1）日常生活における問題点を認識し，自分達の問題として捉えることができる。また。他者との道徳的価値観の違いから問いをもつことができる。 ・学ぶ道徳的価値に関わる自らの生活や体験を想起することができる。 ・導入で触れた道徳的価値について,自分達なりの問題を見つけることができる。 ・他者の考え（学級児童間，データなど）に触れることで自分の考えとのギャップに気付き，問いをもつことができる。 （2）見つけた問題点や問いをもとに，教師とともに課題を設定することができる。 ・教師とともに，見つけた問題点について焦点化を図り，課題の設定をすることができる。 ・教師とともに，問いから課題の設定をすることができる。
課題追究	**自力追究や他者との協働を通して，自己を見つめ，多面的・多角的に考えることで，道徳的価値の理解を深めることができる。それをもとに自己の生き方を見つめ直すことができる。** （1）自力追究や他者との協働を通して，自己を見つめ，多面的・多角的に考えることで，道徳的価値の理解を深める。 ①問題解決に向けて自力追究する ・道徳ノートへ自分の考えを記入する。 ・自分の考えを学習ツールに表現する。（心情メーター，アナライザー等） ②問題解決に向けて他者と協働する。 ・資料から問題状況を整理する。 ・教師とともに板書を整理していく。 ・学習形態（ペア交流，グループ交流，グループ間交流）の決定。 ・黒板に整理されたことや学習ツールをもとに議論する。  （2）学んだことをもとにして，自己の生き方を見つめ直す。 ①自分の現状を理解し，反省したり，自分の行動のよさを実感したりする。また，これからどのようなことができるのか考えることができる。 ・アンケート結果や道徳ノートへの記述，黒板に整理された内容等を踏まえて，課題や道徳的価値について自分の考えをもち，これまでの自分と比較しながら考えることができる。 ・これからどんなことができるのかを考えることができる。（道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度の視点）
パフォーマンス	**問題や道徳的価値について自分の考えを自力追究したり，他者と協働したりしながら，道徳ノートに記述し，ツールや掲示したものをもとに議論することができる。** （1）道徳ノートに記述，ツールをもとに自分の考えを整理して考えを述べることができる。 ・発問に対する自分の考えをもち，道徳ノートに記述したり，ツールを用いて自分の立場や考えを明確にしてその理由を述べたりすることができる。 ・板書を見ながら，自分の考えや他者の考えを理解し，自分の考えをもつことができる。 （2）他者の考えについて，批判的なものの見方で捉えて，考えを述べることができる。また，時間軸で自分を捉えて，自分のことや自分の生き方について述べることができる。 ・他者の考えに対して，「もし，～なら・・・。」，「でも，～だとしたら・・・。」という異なった視点で考えを述べることができる。 ・自分とは違う考えの立場に立って，考えを述べようとすることができる。 ・自分の過去，（これまでは…），自分の現在（今は…）自分の未来（これからは…）を意識して考えを持つことができる。

～自己を見つめ，学びの主体者となる子供～

A　主として自分自身に関すること
「善悪の判断，自律，自由と責任」を例に

目指す姿を実現する支援例

【自分の問題として捉えられるような導入】

- 主題に関わるアンケートを実施し，アンケート結果を交流したり，考えを述べ合ったりすることを通して自分の課題として捉えられるようにする。
- 問題が内在する写真の提示や資料（新聞記事やポスター，一般的な状況がわかるデータなど）の提示を行うことで，自分の意識とのギャップを生み出し，課題に取り組む必要感を高める。

【日常の生活と教材の関連性を意識】

- 主題に関わって，よりよい生き方を目指したり，うまくいかない点を課題として自ら設定したりできるよう促す。(問題解決的に学習に取り組む)

【価値理解，他者理解，人間理解が進むよう，適切な主発問，ツールを用意】

- 児童の実態を加味し，ねらいを焦点化する。
- ねらいに迫れるよう，教材で可能な３つの理解（価値理解，人間理解，他者理解）を明確にする。
- ねらいに合わせて主発問を選択し，提示する。
- 活動に合ったツールや学習方法の提示と選択の促し。
  【学習形態】ペア交流，グループ交流，グループ間交流
  【ツール】思考ツールが書かれたワークシート
  ネームプレート　心情メーター
  アナライザー　など。
- 必要に応じて，読み物教材への自我関与を取り入れた発問や道徳的行為に関する体験的な活動などを取り入れる。

【時間軸を意識した言葉がけ，問い返し】

- 「これまでは…」「前は…」「今は…」「これからは…」などの直接的な表現や，「どのように変わったの？」，「前と同じなの？」と比較させる表現を用いて，登場人物や自分の人生について時間軸を意識できる言葉がけや問い返しを行う。
- 自分のことについて，時間軸を意識して考えをもつことができていることを称賛する。考え方が変わっただけではなく，自分の考えが良い考え方だったということに気付くことも大切なことだと価値付ける。

【考えを主張できるツールの活用】

- 自分の立場を明確にすると考えを述べやすく，周囲も自分の考えと比較しやすい。視覚化するとそれをもとに自分の考えを主張したり，相手の考えも理解したりしやすい。そのため，狙いや学習内容の構造に適したツールを提示したり，自分たちで選択させたりすることで，自分の考えを整理し，他者の考えも理解できると同時に，活発な議論につなげる。

【板書を構造化し，児童が概念化できるよう支援する】

- 板書を構造的に整理することで，自分の考えだけではなく，多様な考えがあることや道徳的価値の概念をつかむことができるように支援する。

特別の教科道徳（高学年）担当：阿保　裕也・真田　武知